

# YAMAKADO NEWSLETTER

NO.186

2015/05/21

山門水源の森を次の  
世代に引き継ぐ会

2015/5/1



2010/5/3

2010年5月3日  
南部湿原の咲くべき  
ミツガシワが全く視  
界に入っていない。  
湿原脇の灌木の下  
に僅かに数株貧弱  
な花序が覗いてい  
るという悲惨な状  
況になった。湿原  
内に入って調べると  
花芽を持たない小  
さな株



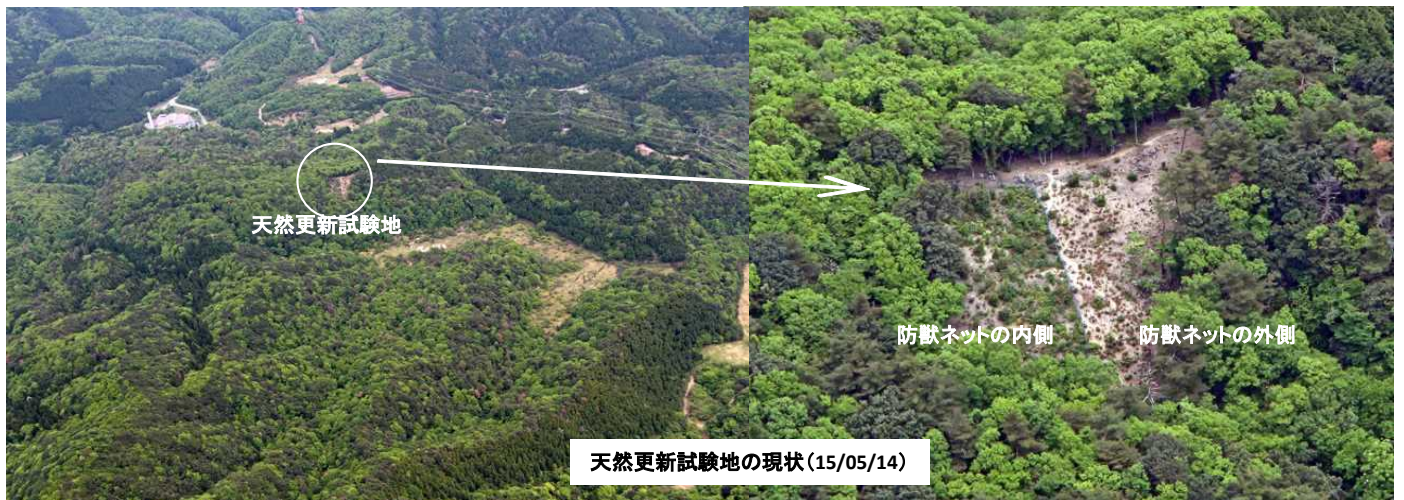
2011/4/4

が所々に顔を出していた。この時食害防止ネット設置を決断すべきでした。しかし小さな株が来期は花を咲かせるのではないかと淡い期待を持ちました。しかしそれらの株は時間が経っても大きくなることは無く、株数も逆に減少する結果となりました。シカ・イノシシの食害をササユリ保全で嫌と言うほど知っておりながら過小評価していました。2011年4月4日未だ残雪のある南部湿原に防獣ネットの設置を行いました。翌2012年からは波板も併設しました。それから5年が経過した今年観察コースからもミツガシワ群落の回復がはっきりと見える状態までになりました。この間の保全作業・ネット巡視には多大な経費と労力を費やしましたが、絶滅の危機は一応脱出し、数年後には1990年代の大群落が復元出来る見込みが立ちました。



ササユリの食害防止作業もつづく(15/05/12)

一方ミツガシワより早くから保全作業を続けているササユリは、シカの食害が私たちの知恵を超え、未だ確実な成果が出ていません。今年は、蕾が付いていない複葉の株にも金網掛けを行い完全保護を目指しています。その成果は来年に・・・



天然更新試験地の現状(15/05/14)

山門水源の森でのシカの食害が、生物多様性の保全に重大な影響を及ぼしていることはこれまでのササユリやミツガシワの保全に費やした保全作業量からも明らかである。しかし獣害の森林に及ぼす多大な被害については、林業・農業関係者以外にはそれほど重大な問題だとは理解されていない節があります。ましてや「生物多様性の保全」と獣害の関係については、直接そのことに関係している人たち以外には「重大な問題」とはとらえられていないのではないかと思います。山門水源の森では、2011年以來「天然更新試験地」での植生調査と獣害防止ネット設置（夏原 Grant 助成によって）を行い、獣害が生物多様性を著しく阻害していることが確認されています。その一環として獣害が湖東から湖北の植生にどのような影響を与えているのかを確認するため、セスナ機による上空からの撮影を5月14日に実施しました。霊仙山・伊吹山・山門水源の森の現況



ササ優先だった山頂部

霊仙山山頂部の食害被害(15/05/14)



草本類優先の山頂部

伊吹山山頂部(15/05/14)



森林が優先する森

山門水源の森(15/05/14)

を比較したのが3枚の写真です。いずれの地点もシカの食害が課題となっている所です。霊仙山では、山頂部を被っていたササは食い尽くされ、カルスト地形が露出しています。加えて表土の流出や斜面崩壊が発生しています。山腹部の樹林帯も下層植生は殆ど食い尽くされています。伊吹山山頂部は、いわゆる「草原」ですが、昨今急激に食害が進んでおり食害防止が課題となっています。山門水源の森は、一見正常

な植生であるように見えますが、樹下では食害が進行しているのは前述の通りです。

3年前に始めたヒノキ林の剥皮防止のため巻いたテープが木肌に食い込まないように巻き直し作業を始めました。今回はレイカディア大学32期生が大挙応援に来ていただきました。毎年2回長年にわたり協力してもらっています。こうした協力で森の維持が何とかできています。



ヒノキ林食害防止テープ巻き直し作業(15/05/13)